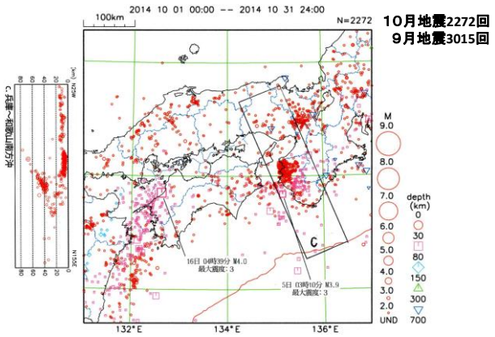
南海トラフ地震までの対策（その３）

前回まで、東日本大震災後の日本は、地震活動期に入り直下型断層地震がいつ、どこで発生してもおかしくないのが現状と述べてきた。

昨年の 11 月 22 日にも長野県北部神城断層でM6.7 の直下型地震が発生したが、深さはわずか 5km の浅い地震で、震度 6 弱と揺れが大きく、狭い地域に大きな被害を与えた。今後南海トラフ地震発生までの間は、いつ、どこでもこのような状況になると想定して生活基盤を考えねばならない。

大阪管区気象台　管内地震活動図 14.10.1～31（1ヶ月間）



大阪管区気象台発表の、昨年 10 月の管内地震活動図を見ても、1 ヶ月間で 2,272 回（9 月は 3,015 回）と東日本大震災前の 2～3 倍の地震発生となり、非常に活発なのがわかる。特に和歌山と京都から川西にかけての大阪北部地域で顕著に多く発生している。微細動地震が多いと歪みも解消されるとの説もあるが、その周囲では歪が蓄積される場合もあり危険度が増す。

図のＣ断面を見ると、フィリピン海プレートの沈み込み面が明確に見え、そこでの微細動地震の発生が多いのと、20km 未満の浅い所での発生が多く見られる。これらの地震は阪神間の大都市に近く、防災、減災対策の備えが急務であることを促がしている。また、この地域では個人の日頃からの備えも当然必要になる。住宅の耐震チェックや室内家具の固定もしておかなければならない。昨年の長野北部地震での重傷者 7 名の内 3 名が倒壊家具の下敷きで被災した。家具固定をしておけば避けられたかも知れない。そうならないためにも気付いた時に、すぐ行動を起こそう。

（記：輔信　捷三）

応急手当指導員に防災士２名が認定

10 月 27 日～29 日の 3 日間、川西市消防本部において応急手当指導員の講習会があり、防災士会から駒井さんと中村さんの 2 名が参加いたしました。応急手当の基礎医学の講義や止血法・傷病者管理法・運送法・異物除去・心肺蘇生法等の実技と心肺蘇生法指導要領を学び、筆記試験・実技試験を経て応急手当指導員の認定を受けました。本年は、避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）と普通救命講習を二本柱として、活動の輪を広げて行こうと思っております。

心肺蘇生の実践

講習会修了者

編集後記：明けましておめでとうございます。昨年は 8 月広島の土砂災害、9 月御嶽山の噴火、10 月台風 18 号により静岡では観測史上最大の 402mm の降雨、11 月長野の震度 6 弱の地震発生等、自然災害は猛威を振るいました。自助（自らの安全は自ら守る）、共助（地域で助け合う）の体制づくりをしましょう。1 月 17 日は阪神・淡路大震災から 20 年を迎えます。この教訓を忘れず事前対策を万全にしましょう。　（記：上田、中村）

かわ防ニュース

かわにし防災士会
発行者：江見　輝男
編集者：中村　位三郎
事務局：川西市総務部危機管理室
〒666-8501　川西市中央町 12 番 1 号
電話　072-740-1145

年頭のご挨拶
かわにし防災士会　会長　江見　輝男

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、夏の豪雨による被害が各地で起こり、御嶽山・阿蘇山の噴火もありました。自然の猛威に対して、防災・減災の取り組みは終わることがありません。

さて、「地域の人の命は地域の人が救う」　阪神・淡路大震災の教訓です。1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、阪神･淡路地方を大地震が襲いました。そして 6,434 名もの尊い命と多くの財産が奪われました。しかし、振り返ってこの年がボランティア元年と言われるように、若い人たちが立ち上がった年でもあります。本来、人の持つ優しさ、思いやり、助け合いの心を改めて教えてくれたのは、皮肉にもこの震災であったのかもしれません。

あの日から 20 年がたち、私たちは震災の教訓をもとに、自助、共助、公助が連携してさまざまな取り組みを重ね、安全で安心なまちづくりを目指しています。私たち防災士は、ＮＰＯ法人日本防災士機構が認証する民間資格で、「自助、共助、協働を原則として、社会のさまざまな場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつそのために十分な意識、知識、技能を有する者として認められた人」を定義に活動をしております。2003 年から始まりまして、全国で、現在 8 万 4,835 名、兵庫県では 2,797 名、川西市におきましては 26 名の防災士で「かわにし防災士会」として活動をしております。

「助けられる人から　助ける人へ」わたしたちからのメッセージです。

本年も防災・減災に対するネットワークの拡大と意識の強化に努めてまいります。

新年のご挨拶
川西市長　大塩　民生

かわにし防災士会の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申しあげます。

平素から、本市の防災行政にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、昨年は、日本各地で台風や集中豪雨により多くの被害が発生いたしました。

本市におきましても、８月から９月にかけて、台風や集中豪雨による浸水被害や土砂災害が発生し、市内の一部に避難勧告を発令することとなりました。

本市では、日頃から大災害に備え、地域の防災訓練での指導や、防災に関する出前講座などを実施し、防災・減災の重要性について啓発活動を実施しておりますが、大災害発生時には、防災士の皆様の知識や経験、地域に密着した防災活動が大きな力になると頼もしく思っております。

来る１月１７日で、阪神・淡路大震災から２０年を迎えます。当時の記憶を忘れず、大規模災害に備えるため、今後とも、皆様と協力し、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

皆様にとって、この１年が幸多く、実り豊かな年となりますよう、お祈り申しあげます。

川西市長　大塩民生